

# 宮城県商工地区中小企業景況調査報告書

2026 年 1 月～3 月期

## 目 次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 1. 県下産業全体の景況……………              | 2  |
| (1) 主要景況項目のあらまし……………           | 2  |
| (2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし…………… | 3  |
| (3) 今後の見通しについて……………            | 4  |
| 2. 県下産業別の景況……………               | 5  |
| (1) 製造業の動向……………                | 5  |
| (2) 建設業の動向……………                | 8  |
| (3) 小売業の動向……………                | 11 |
| (4) サービス業の動向……………              | 14 |

2026 年 4 月

宮 城 県 商 工 会 連 合 会



# 中小企業景況調査報告書

2026 年 1 月～3 月

## [調 査 要 領]

### 1. 調 査 対 象

- (1) 対 象 地 区                      宮城県内 10 商工会地区  
(調査対象商工会名) 名 取 市 商 工 会 、 大 河 原 町 商 工 会 、 み や ぎ 仙 台 商 工 会 、  
利 府 松 島 商 工 会 、 く ろ か わ 商 工 会 、 加 美 商 工 会 、  
大 崎 商 工 会 、 若 柳 金 成 商 工 会 、 み や ぎ 北 上 商 工 会 、  
石 巻 か ほ く 商 工 会
- (2) 対 象 企 業 数                      1 5 0 企 業
- (3) 回 答 企 業 数                      1 5 0 企 業

### 2. 調査対象期間

2026 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は 2026 年 3 月 1 日とした。

### 3. 調 査 方 法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

### 4. 回答企業内訳

| 業 種   | 企 業 数 |
|-------|-------|
| 製 造 業 | 3 0   |
| 建 設 業 | 2 5   |
| 小 売 業 | 4 2   |
| サービス業 | 5 3   |
| 合 計   | 1 5 0 |

### 5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（上昇・好転）企業割合と減少（低下・悪化）企業割合の差を示すものである。

## 1. 県下産業全体の景況

### (1) 主要景況項目のあらまし

#### ① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期（2026 年 1 月～3 月期）の調査において、産業全体（全産業）の業況D I（前年同期との比較D I、以下同じ）は、前期と比べ△24.5（前期△30.9）で 6.4 ポイントの改善となった。産業別では、製造業が△32.1（前期△34.5）で 2.4 ポイントの改善、建設業は△16.0（前期△12.0）で△4.0 ポイントの悪化、小売業は△38.1（前期△50.0）で 11.9 ポイントの改善、サービス業では△13.5（前期△22.6）と 9.1 ポイントの改善となった。

来期見通しでは、製造業で改善する一方、建設業、小売業、サービス業では悪化の見通しとなっている。

表－1 業況D I の状況と来期見通し（前年同期比・D I）

| 業 種   | 前 期    | 今 期    | 来期見通し  |
|-------|--------|--------|--------|
| 全 産 業 | △ 30.9 | △ 24.5 | △ 28.5 |
| 製 造 業 | △ 34.5 | △ 32.1 | △ 29.6 |
| 建 設 業 | △ 12.0 | △ 16.0 | △ 37.5 |
| 小 売 業 | △ 50.0 | △ 38.1 | △ 40.5 |
| サービス業 | △ 22.6 | △ 13.5 | △ 13.8 |

#### ② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業で 16.7%となり前期比△3.3 ポイント減少、建設業が 20.0%で前期比横ばい、小売業が 14.3%で前期比△4.7 ポイントの減少、サービス業では 17.0%で前期比 5.7 ポイントの増加となった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べて製造業、建設業、小売業で減少、サービス業では横ばいの見通しとなっている。

表－2 設備投資の状況と来期計画（企業割合・%）

| 業 種   | 前 期  | 今 期  | 来期計画 |
|-------|------|------|------|
| 製 造 業 | 20.0 | 16.7 | 10.0 |
| 建 設 業 | 20.0 | 20.0 | 8.0  |
| 小 売 業 | 19.0 | 14.3 | 11.9 |
| サービス業 | 11.3 | 17.0 | 17.0 |

## (2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

### ① 売上額（完成工事額）

2026年3月調査の日銀短観で、中小企業の業況判断指数（D I）は前期（2025年12月調査）と比較し、「製造業が横ばい、非製造業ではマイナス1の小幅低下を予想。製造業のうち、素材業種は中東情勢の緊迫化に伴う燃料コストの増加や輸入原材料の供給制限により悪化した一方で、加工業種は堅調な需要に支えられ改善。他方、非製造業では人手不足に加え、日中関係の悪化によるインバウンドの減少が宿泊・飲食サービスを中心に業況悪化の要因」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、前期との比較で全産業において改善となった。

また、今期の宮城と全国・東北との売上額D I比較では、製造業、建設業で全国以下・東北以上、小売業、サービス業で全国・東北以上であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

| 区 分<br>業 種 | 全 国    |        | 東 北    |        | 宮 城    |        |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|            | 前 期    | 今 期    | 前 期    | 今 期    | 前 期    | 今 期    |
| 製 造 業      | △ 6.4  | △ 6.2  | △ 18.2 | △ 12.0 | △ 36.7 | △ 10.0 |
| 建 設 業      | △ 4.6  | △ 10.0 | △ 20.4 | △ 24.2 | △ 20.0 | △ 12.0 |
| 小 売 業      | △ 21.5 | △ 23.3 | △ 31.7 | △ 33.7 | △ 35.7 | △ 16.7 |
| サービス業      | △ 6.4  | △ 8.9  | △ 17.3 | △ 16.3 | △ 17.0 | △ 3.8  |

### ② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、前期との比較で製造業、建設業、サービス業が改善、小売業では悪化となった。

今期の宮城と全国・東北との採算D I比較では、製造業、建設業で全国以下・東北以上、小売業で全国・東北以下、サービス業で全国・東北以上であった。

表－4 採算の状況 (前年同期比・D I)

| 区 分<br>業 種 | 全 国    |        | 東 北    |        | 宮 城    |        |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|            | 前 期    | 今 期    | 前 期    | 今 期    | 前 期    | 今 期    |
| 製 造 業      | △ 20.4 | △ 18.3 | △ 29.8 | △ 30.9 | △ 39.3 | △ 30.0 |
| 建 設 業      | △ 17.0 | △ 20.0 | △ 34.4 | △ 32.5 | △ 32.0 | △ 24.0 |
| 小 売 業      | △ 32.1 | △ 30.6 | △ 41.2 | △ 44.0 | △ 50.0 | △ 53.6 |
| サービス業      | △ 22.1 | △ 24.9 | △ 30.5 | △ 32.8 | △ 32.1 | △ 15.1 |

### (3) 今後の見通しについて

#### ① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2026 年 4 月～6 月期）では、今期状況D I との比較で、製造業が△10.0 ポイント、建設業で△31.5 ポイント、小売業で△9.5 ポイントの悪化、サービス業では 3.8 ポイントの改善の見通しとなった。

採算来期見通しD I では、今期状況D I との比較では、製造業が△3.4 ポイント、建設業で△1.0 ポイント、サービス業で△0.3 ポイントの悪化、小売業で 4.8 ポイントの改善の見通しとなった。

#### ② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国で改善、宮城で悪化、採算でも全国で改善、宮城で悪化の見通し。建設業では売上は全国・宮城で悪化、採算でも全国・宮城で悪化の見通し。小売業では売上が全国で改善、宮城で悪化、採算では全国・宮城で改善の見通し。サービス業では売上が全国・宮城で改善、採算では全国で改善、宮城で悪化の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

| 区 分<br>業 種 | 全 国    |        | 宮 城    |        |
|------------|--------|--------|--------|--------|
|            | 今期状況   | 来期見通し  | 今期状況   | 来期見通し  |
| 製 造 業      | △ 6.2  | △ 2.7  | △ 10.0 | △ 20.0 |
| 建 設 業      | △ 10.0 | △ 12.4 | △ 12.0 | △ 43.5 |
| 小 売 業      | △ 23.3 | △ 21.9 | △ 16.7 | △ 26.2 |
| サービス業      | △ 8.9  | △ 6.6  | △ 3.8  | 0.0    |

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

| 区 分<br>業 種 | 全 国    |        | 宮 城    |        |
|------------|--------|--------|--------|--------|
|            | 今期状況   | 来期見通し  | 今期状況   | 来期見通し  |
| 製 造 業      | △ 18.3 | △ 15.7 | △ 30.0 | △ 33.4 |
| 建 設 業      | △ 20.0 | △ 20.3 | △ 24.0 | △ 25.0 |
| 小 売 業      | △ 30.6 | △ 27.9 | △ 53.6 | △ 48.8 |
| サービス業      | △ 24.9 | △ 19.9 | △ 15.1 | △ 15.4 |

## 2. 県下産業別の景況

### (1) 製造業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△10.0（前期△36.7）となり前期比26.7ポイント改善、採算D Iでは今期△30.0（前期△39.3）で9.3ポイント改善、資金繰りD Iでも今期△17.3（前期△26.7）で9.4ポイントの改善となった。

原材料仕入単価は今期62.1（前期72.4）と△10.3ポイントの減少となった。

図1-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)

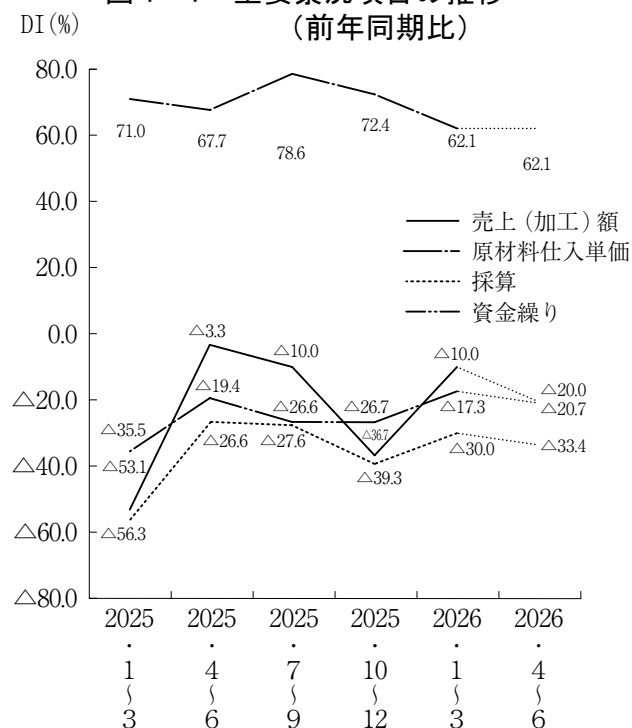
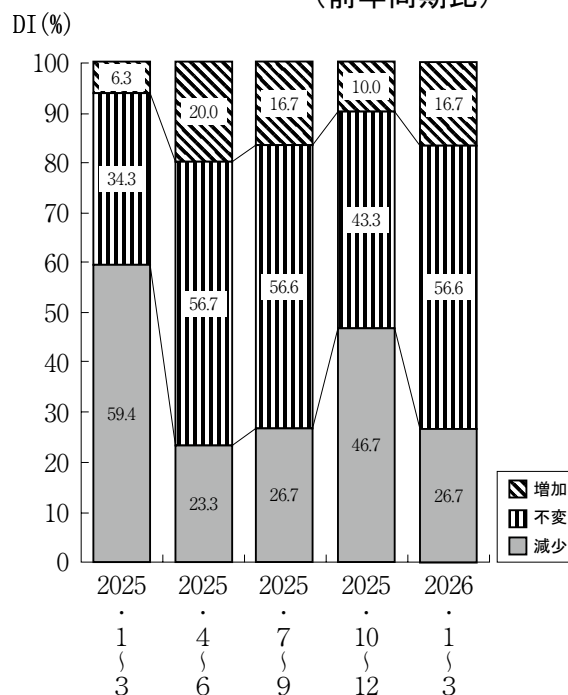


図1-2 売上（加工）額の状況  
(前年同期比)



#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上（加工）額

「増加」と回答した企業は、全体の16.7%（前期10.0%）で6.7ポイントの増加、「減少」と回答した企業は26.7%（前期46.7%）で△20.0ポイント減少した。

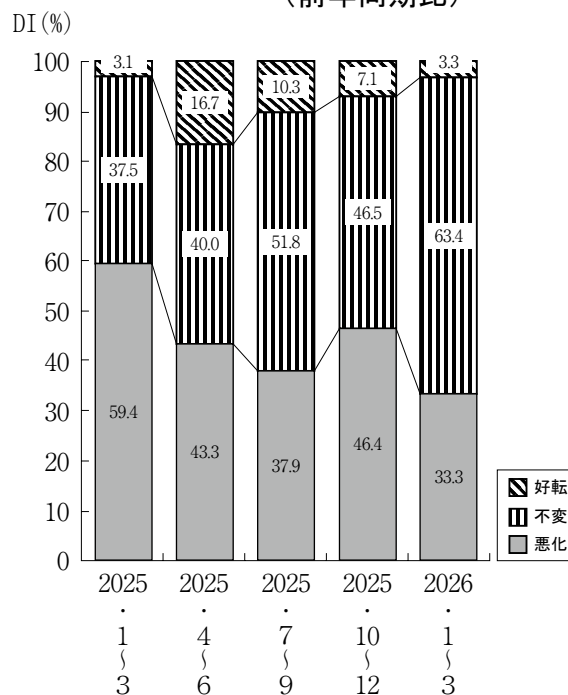
その結果、売上（加工）額D Iは△10.0（前期△36.7）となり、前期比26.7ポイントの改善となった。

## (b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 3.3% (前期 7.1%) で△3.8 ポイント減少、「悪化」と回答した企業は 33.3% (前期 46.4%) で△13.1 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は△30.0 (前期△39.3) で 9.3 ポイントの改善となった。

図 1-3 採算の状況  
(前年同期比)



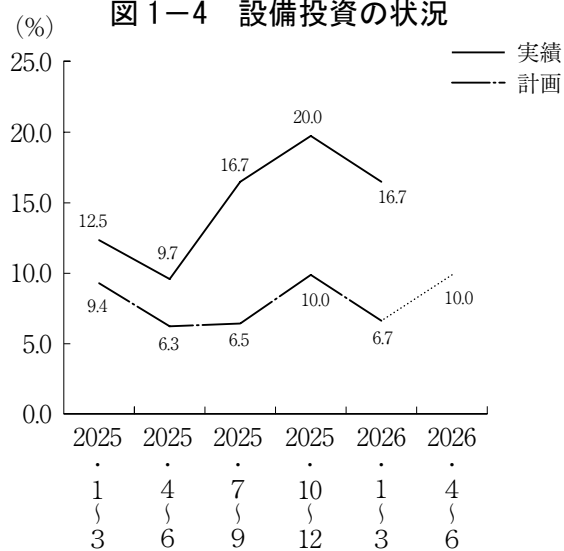
## (c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の 16.7% (前期 20.0%) で前期と比べ△3.3 ポイント減少した。

その設備内容は、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 10.0%で、その設備内容は、工場建物、生産設備となっている。

図 1-4 設備投資の状況

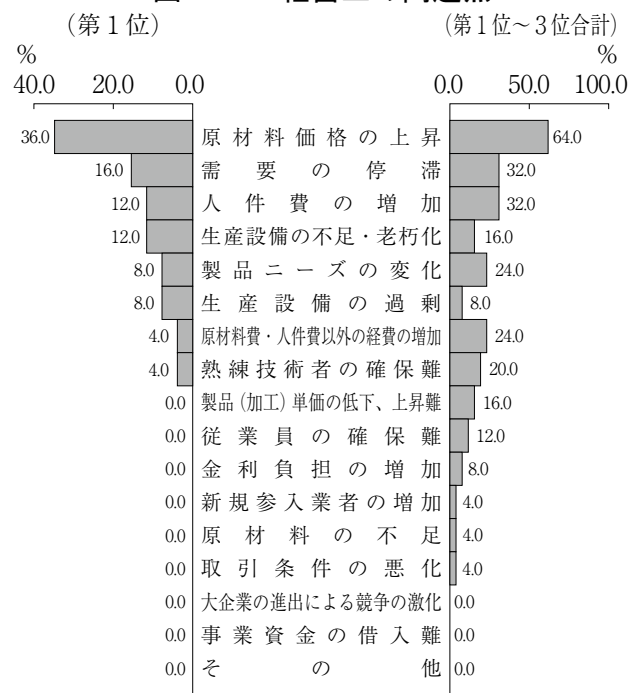


### (d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「原材料価格の上昇」で36.0%、次いで「需要の停滞」が16.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「原材料価格の上昇」が64.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」「人件費の増加」が同率32.0%、「製品ニーズの変化」「原材料費・人件費以外の経費の増加」が同率24.0%、「熟練技術者の確保難」が20.0%、「生産設備の不足・老朽化」「製品（加工）単価の低下、上昇難」が同率16.0%、「従業員の確保難」が12.0%、「生産設備の過剰」「金利負担の増加」が同率8.0%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



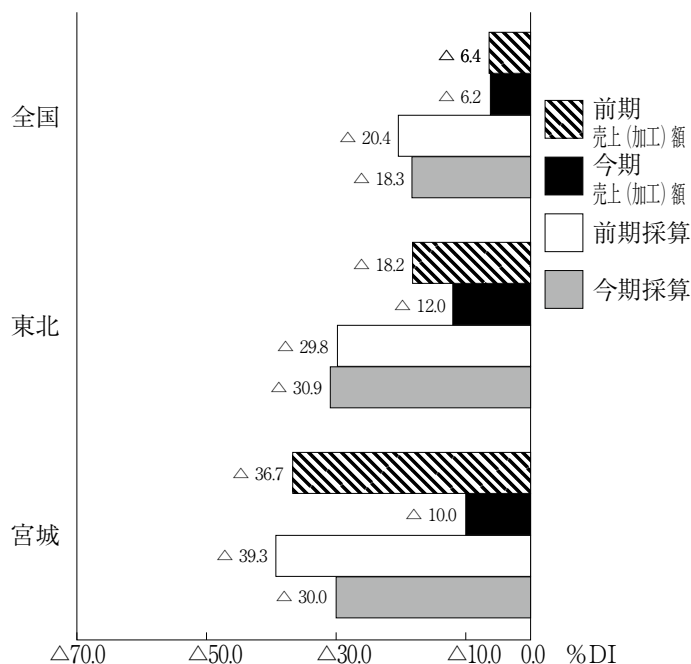
### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で、売上（加工）額D Iは全地域（全産業）で改善となった。その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算D Iでは全国、宮城で改善、東北で悪化となった。

本県回答事業者からは、「上がり続ける運転経費に対し値上げの対応にも限界」（印刷業）、「原材料価格の上昇、人件費（最低賃金）の上昇に伴い、経費負担の割合が増加する一方、商品値上げには躊躇」（食料品製造業）、「冬季は内装リフォームの動きが鈍化、新事業展開も視野」「価格上昇、社保負担増により、実質賃金の上昇が困難」（昼製造業）などのコメントが寄せられた。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



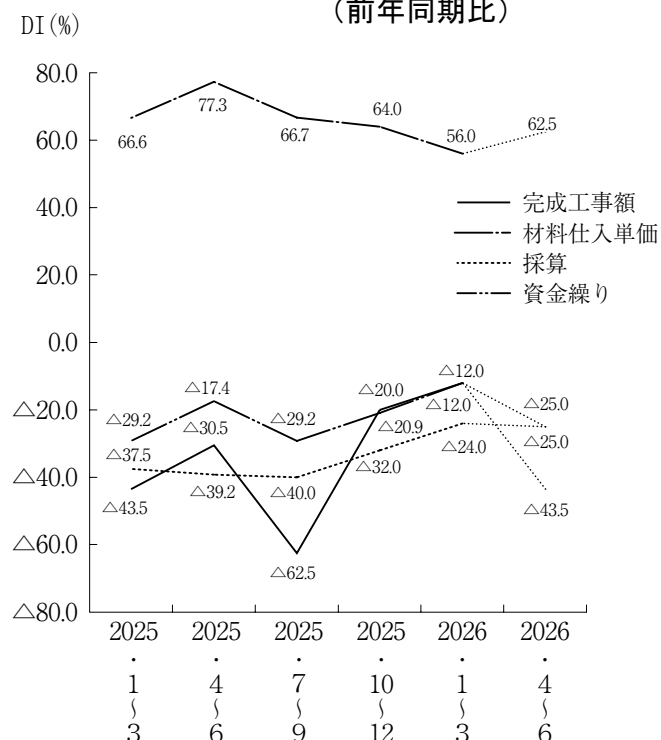
## (2) 建設業の動向

### ① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△12.0（前期△20.0）となり前期比8.0ポイント改善、採算D Iでは今期△24.0（前期△32.0）で8.0ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△12.0（前期△20.9）で8.9ポイントの改善となった。

材料仕入単価D Iは今期56.0（前期64.0）と△8.0ポイントの減少となった。

図 2-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



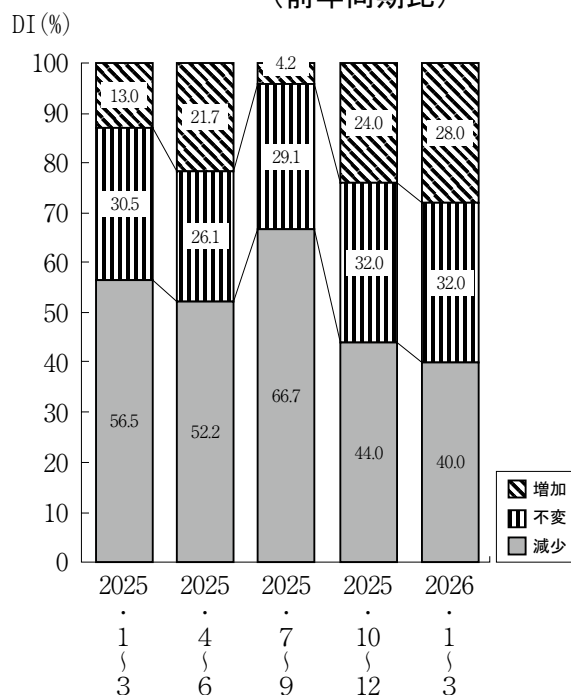
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の28.0%（前期24.0%）で4.0ポイント増加、「減少」と回答した企業は40.0%（前期44.0%）で△4.0ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△12.0（前期△20.0）となり、前期比8.0ポイントの改善となった。

図 2-2 完成工事額の状況  
(前年同期比)

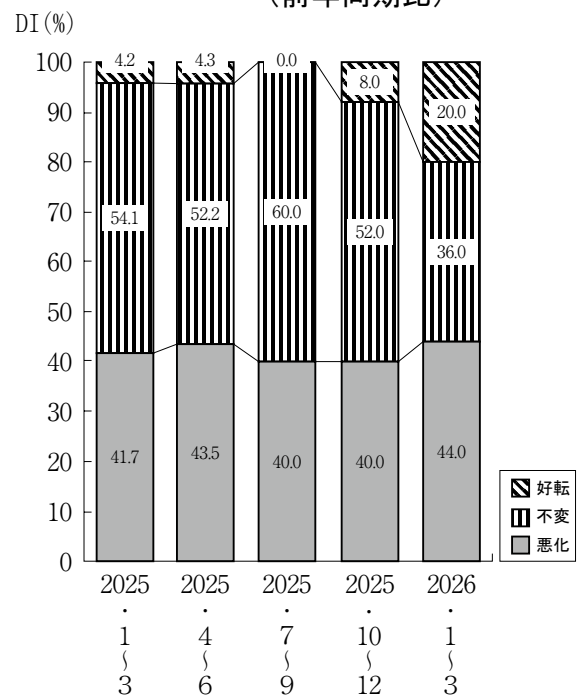


## (b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の20.0%（前期8.0%）で12.0ポイント増加、「悪化」と回答した企業は全体の44.0%（前期40.0%）で4.0ポイント増加。

その結果、採算DIは△24.0（前期△32.0）となり、8.0ポイントの改善となった。

図2-3 採算の状況  
（前年同期比）



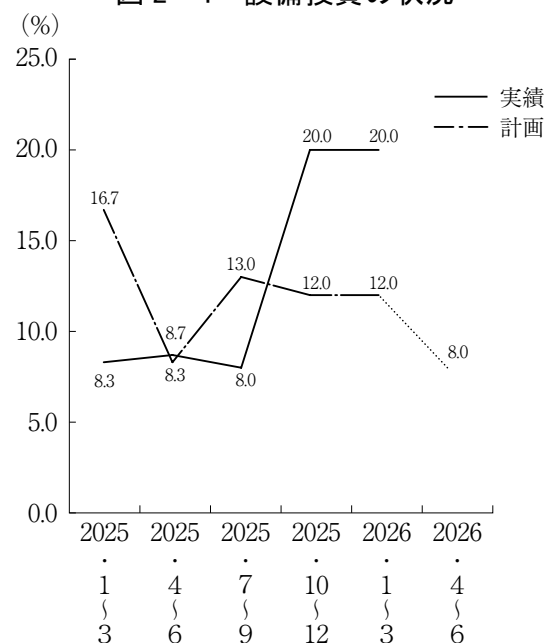
## (c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の20.0%（前期20.0%）で前期と比べ横ばい。

その設備内容は、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の8.0%で、その設備内容は、建物、車両・運搬具となっている。

図2-4 設備投資の状況

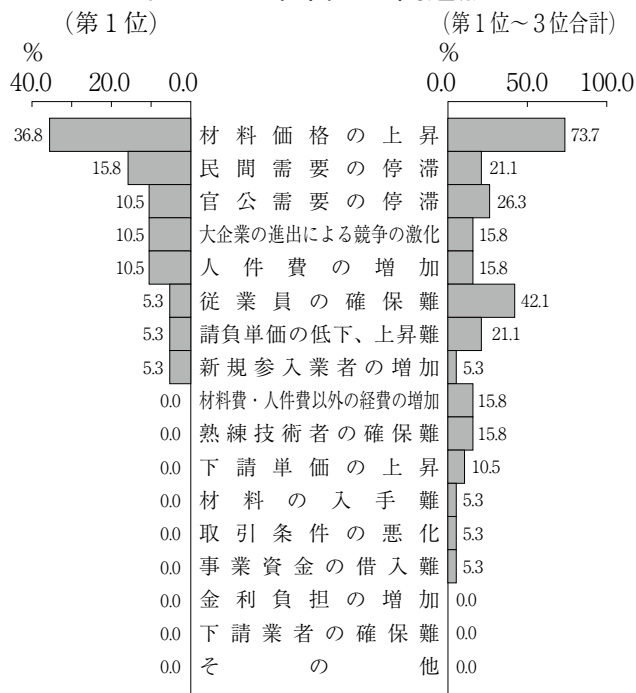


### (d) 経営上の問題点

重要度第 1 位の問題点は「材料価格の上昇」が 36.8%、次いで「民間需要の停滞」が 15.8%で続いた。

重要度第 1 位から第 3 位合計では、「材料価格の上昇」が 73.7% (複数回答合計、以下同じ) で最上位、次いで「従業員の確保難」が 42.1%、「官公需要の停滞」が 26.3%、「民間需要の停滞」「請負単価の低下、上昇難」が同率 21.1%、「大企業の進出による競争の激化」「人件費の増加」「材料費・人件費以外の経費の増加」「熟練技術者の確保難」が同率 15.8%、「下請単価の上昇」が 10.5%で続いた。

図 2-5 経営上の問題点



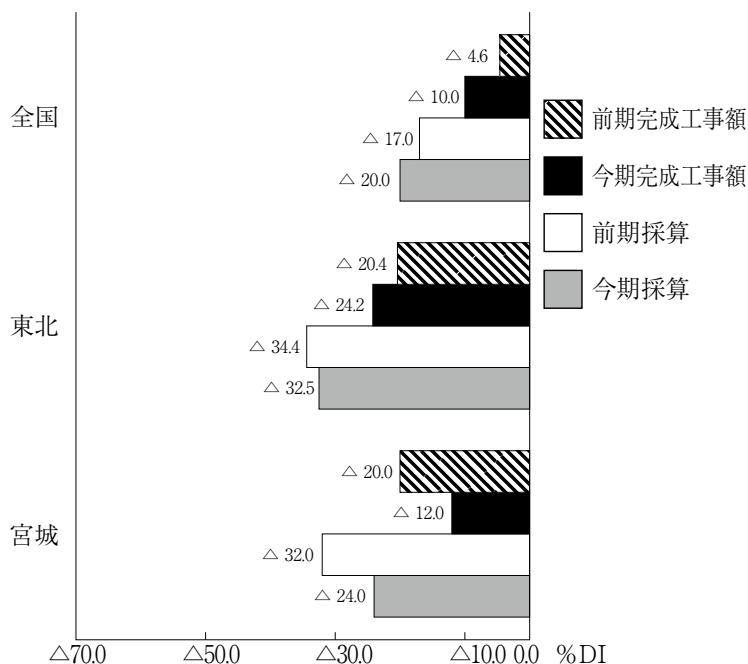
### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額 D I は全国、東北で悪化、宮城で改善となった。

採算 D I では全国で悪化、東北、宮城で改善となった。

本県回答事業所からは、「民間需要の停滞が業況悪化の要因となっている」(建築リフォーム業)、「仕事の依頼が減少している」(解体工事業)、「今年に入り大手材料メーカーが発表した各資材の値上げを受け、今後ますます採算面で悪化する見通し」(電気通信工事業)などのコメントが寄せられた。

図 2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較 (前年同期比)



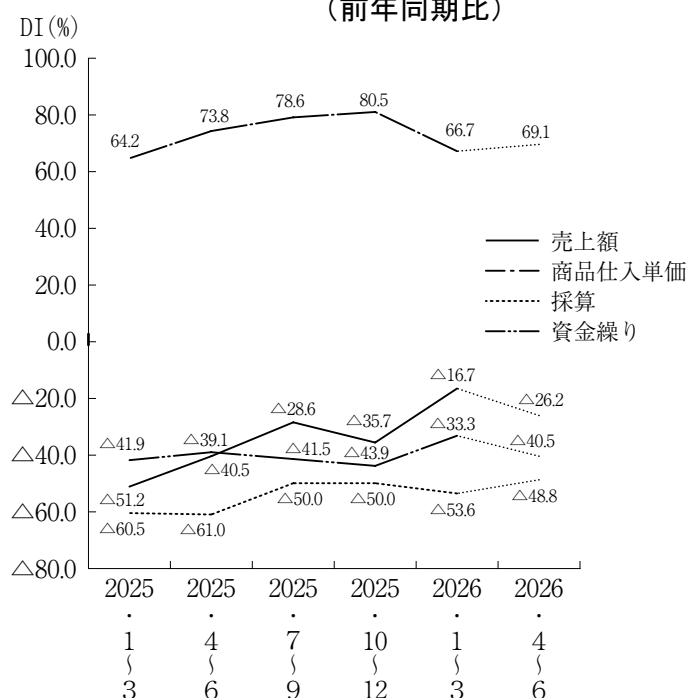
### (3) 小売業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△16.7(前期△35.7)となり前期比19.0ポイント改善、採算D Iでは今期△53.6(前期△50.0)で△3.6ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△33.3(前期△43.9)で10.6ポイント改善した。

商品仕入単価D Iは今期66.7(前期80.5)で△13.8ポイントの減少となった。

図3-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



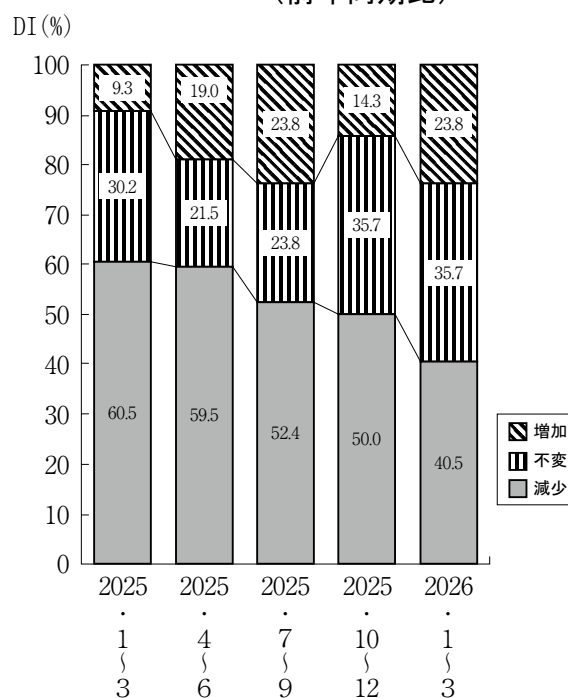
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の23.8%(前期14.3%)で9.5ポイント増加、「減少」と回答した企業は、今期は全体の40.5%(前期50.0%)で△9.5ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△16.7(前期△35.7)と前期より19.0ポイントの改善となった。

図3-2 売上額の状況  
(前年同期比)

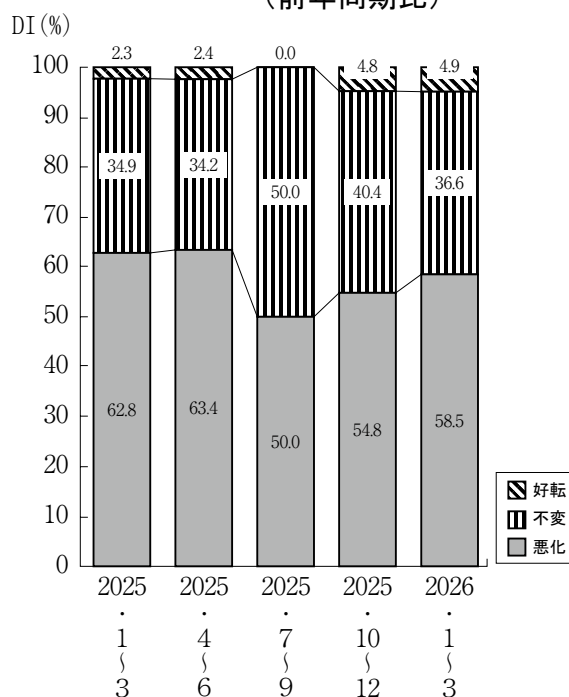


## (b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の4.9%（前期4.8%）で0.1ポイント増加、「悪化」と回答した企業は、今期は全体の58.5%（前期54.8%）で3.7ポイント増加した。

その結果、採算D Iは今期△53.6（前期△50.0）となり、△3.6ポイントの悪化となった。

図 3-3 採算の状況  
(前年同期比)



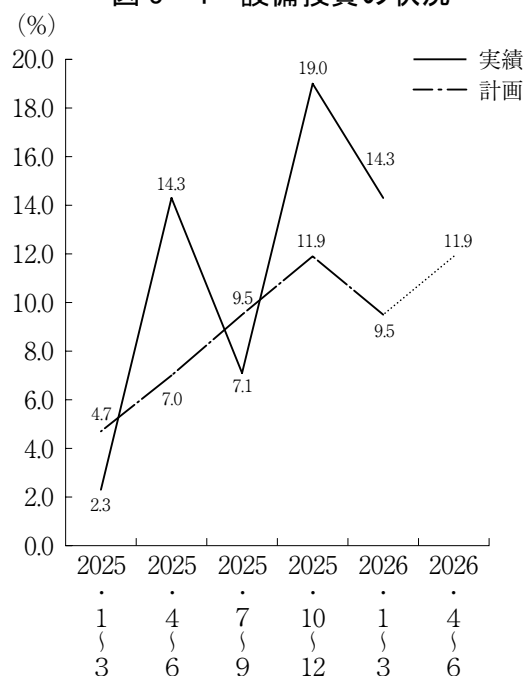
## (c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の14.3%（前期19.0%）で前期と比べ△4.7ポイント減少した。

その設備内容は、店舗、販売設備、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の11.9%で、その設備内容は、店舗、販売設備、付帯設備、OA機器となっている。

図 3-4 設備投資の状況

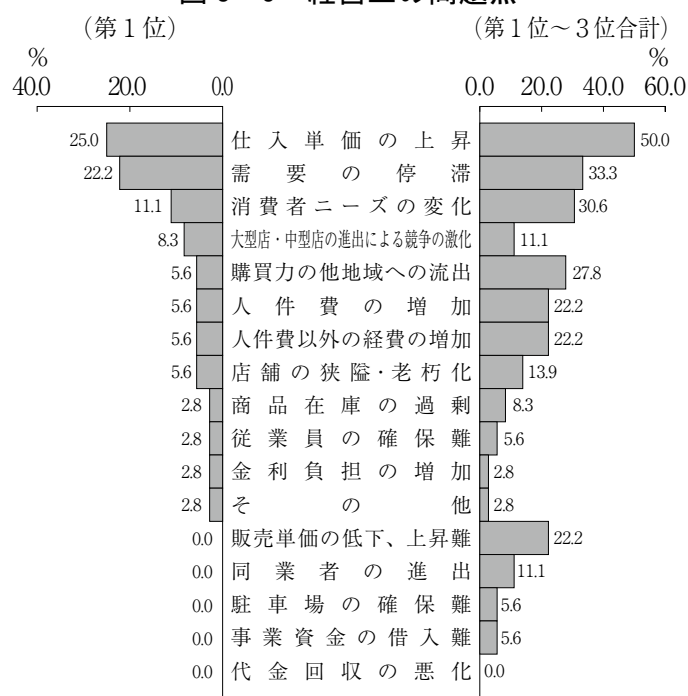


### (d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「仕入単価の上昇」が25.0%、「需要の停滞」が22.2%、「消費者ニーズの変化」が11.1%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「仕入単価の上昇」が50.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が33.3%、「消費者ニーズの変化」が30.6%、「購買力の他地域への流出」が27.8%、「人件費の増加」「人件費以外の経費の増加」「販売単価の低下、上昇難」が同率22.2%、「店舗の狭隘・老朽化」が13.9%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」「同業者の進出」が同率11.1%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



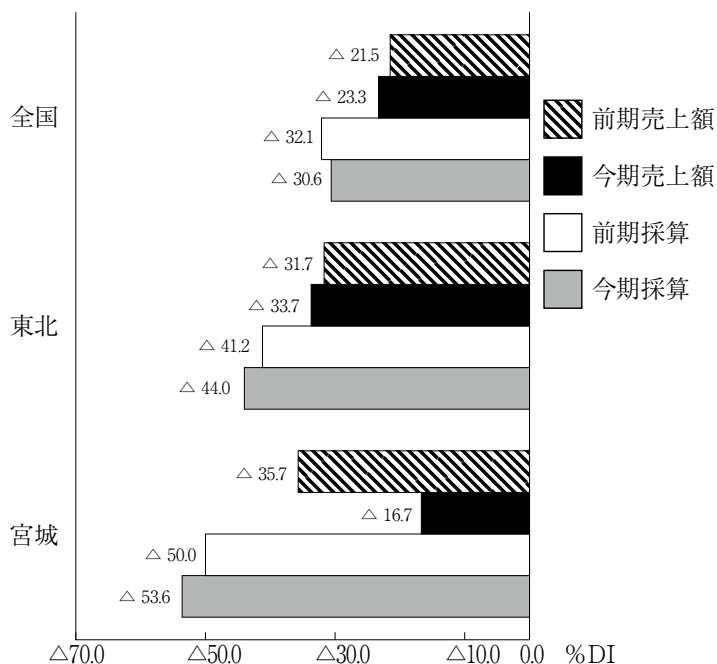
### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上D Iは、全国、東北で悪化、宮城で改善となった。

採算D Iでは全国で改善、東北、宮城で悪化となった。

本県回答事業所からは、「問屋が東北から撤退、業界自体が需要減」（写真・印章業）、「金利上昇に苦慮」（燃料販売）、「調剤は需要を予測して医療品を備蓄、在庫管理の見通しがカギ」（医薬品小売業）、「少子化に伴い文具、教科書の需要減少」（書籍・雑貨小売業）、「人件費の増加（最低賃金上昇）が経営上の重荷」（海産物小売業）、「顧客の購買点数・来店頻度が低下」（食料品）などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較（前年同期比）



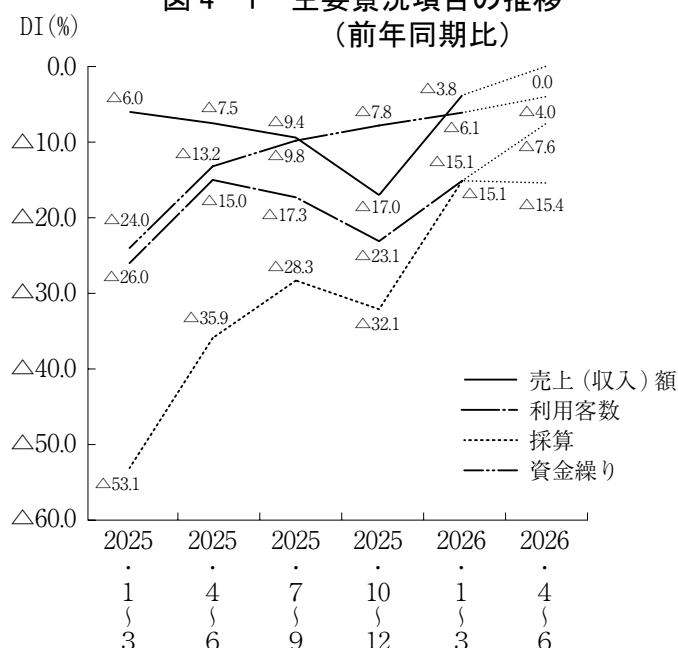
## (4) サービス業の動向

### ① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△3.8（前期△17.0）となり前期比 13.2 ポイント改善、採算D Iは今期△15.1（前期△32.1）で 17.0 ポイント改善、資金繰りD Iでは、今期△6.1（前期△7.8）で 1.7 ポイント改善した。

利用客数D Iは、今期△15.1（前期△23.1）で 8.0 ポイント改善した。

図 4-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



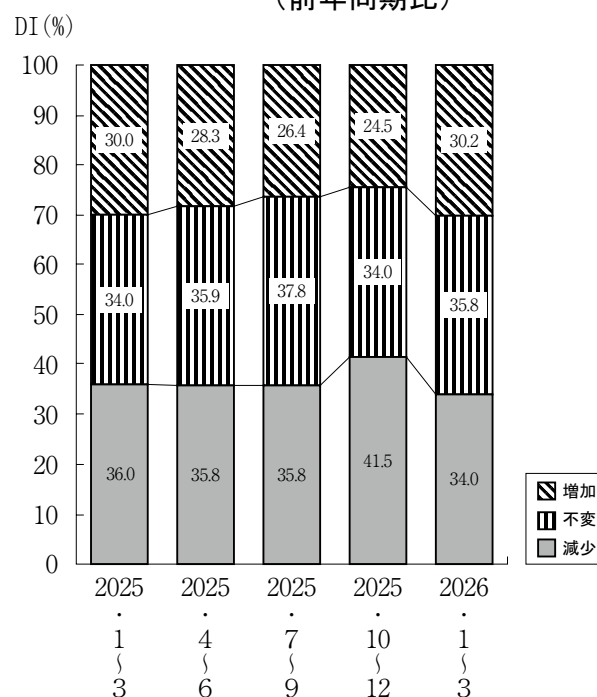
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の 30.2%（前期 24.5%）で前期より 5.7 ポイント増加、「減少」と回答した企業は、今期 34.0%（前期 41.5%）で前期より 7.5 ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△3.8（前期△17.0）で、前期より 13.2 ポイントの改善となった。

図 4-2 売上（収入）額の状況  
(前年同期比)

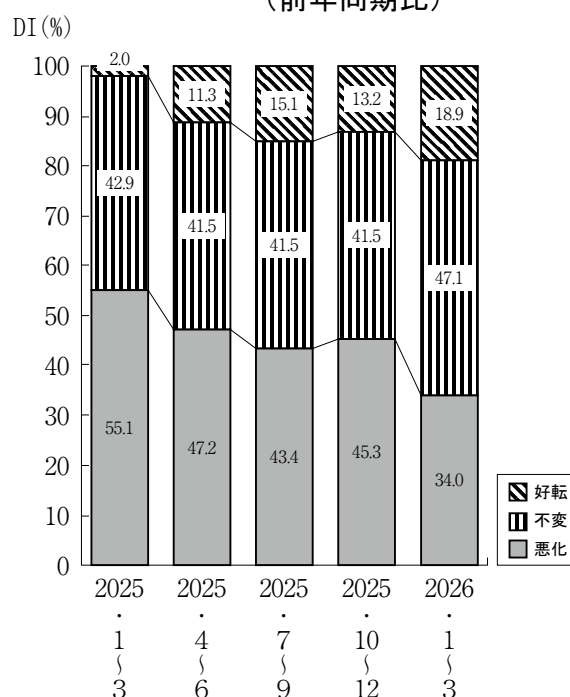


## (b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の18.9%（前期13.2%）で5.7ポイント増加、「悪化」と回答した企業は今期34.0%（前期45.3%）で△11.3ポイント減少した。

その結果、採算D Iは今期△15.1（前期△32.1）で前期より17.0ポイントの改善となった。

図 4-3 採算の状況  
（前年同期比）



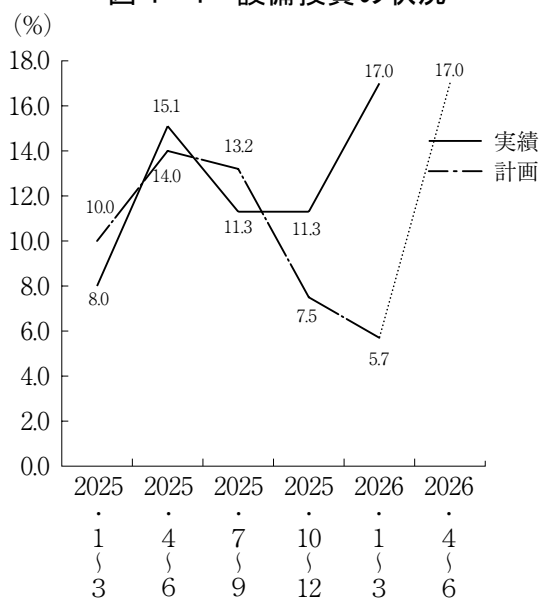
## (c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の17.0%（前期11.3%）で、前期と比べ5.7ポイント増加した。

その設備内容は、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の17.0%で、その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯設備となっている。

図 4-4 設備投資の状況

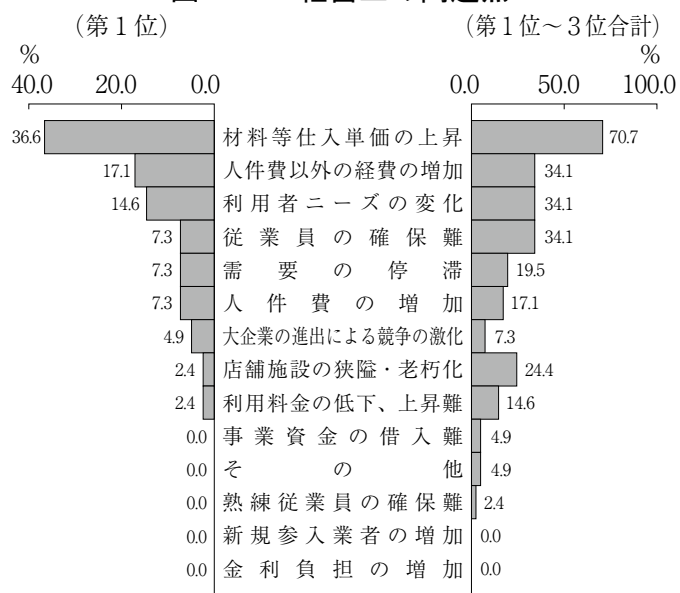


#### (d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料等仕入単価の上昇」が36.6%、次いで「人件費以外の経費の増加」が17.1%、「利用者ニーズの変化」が14.6%であった。

重要度第1位から第3位合計では「材料等仕入単価の上昇」が70.7%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費以外の経費の増加」「利用者ニーズの変化」「従業員の確保難」が同率34.1%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が24.4%、「需要の停滞」が19.5%、「人件費の増加」が17.1%、「利用料金の低下、上昇難」が14.6%、「大企業の進出による競争の激化」が7.3%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



#### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上DIは、全国で悪化、東北、宮城で改善となった。

採算DI比較では、全国、東北で悪化、宮城で改善となった。

本県回答事業所からは、「顧客の高齢化、来店頻度の低下」（理美容業）、「材料費の高騰、人件費の増加で利益が圧迫」「利用客数は増加傾向にあるが、経費増加で運転資金確保に苦慮」「仕入単価の上昇影響は大きい」が、価格転嫁はなかなかできない」（飲食業）、「地域のビジネス宿泊は軟調、出張等の宿泊は減少傾向」（宿泊業）、などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上（収入）額・採算比較（前年同期比）

